



令和3年(2021年)5月18日(火)

公益財団法人広島平和文化センター

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 副館長：大瀬戸

電話：543-6271

担当：橋本

歌人、深川宗俊の遺影が登録されました

1 深川宗俊の被爆状況

広島出身の歌人、深川宗俊（本名：前島雅俊）は、昭和20年(1945年)年7月、三菱重工業広島機械製作所に入社し、朝鮮人徴用工の指導員となりました。

昭和20年(1945年)年8月6日、深川は勤務中に朝鮮人徴用工とともに被爆し（爆心地から約3.7km）、倒壊した事務所から脱出しました。首すじにガラス片がささった程度の軽傷で、翌7日には二人の妹をさがして市内を歩きまわった結果、無事であることがわかりました。深川は、この時の不安な気持ちを次のように詠んでいます。

死体見れば皆妹に見ゆるなりこの幻影は拭いがたくて

戦後、深川は、峠三吉らと共に反戦詩歌運動を始め「われらの詩の会」を結成し、詩誌『われらの詩』の発刊に参加するなど、多くの歌や詩などの作品を残しています。

また、戦時中、寝食を共にした朝鮮人徴用工が故郷へ帰りついてない事実を知った深川は、1970年代から、韓国に遺族会をつくるなど在韓被爆者の救済に尽くしました。

2 遺影の提供者

前島 修史（まえはた しゅうし）深川宗俊の子

3 遺影の提供について

登録された遺影をデータ（JPG）にて提供できます。

提供者：国立広島原爆死没者追悼平和祈念館





深川宗俊 (1921.03.08 - 2008.04.24)